

最近の経済動向

令和3年4月号

(北海道の景気動向～令和3年2月の経済指標を中心として)

持ち直しの動きに弱さがみられる

■生産動向

- P1 生産活動(鉱工業生産指数)
低い水準で推移しているものの、一部に明るい動きがみられる

■需要動向(消費・投資)

- P2 個人消費(百貨店・スーパー・コンビニエンスストア・専門量販店販売額、
インターネットを利用した一世帯支出額、新車登録台数)
一部が低い水準にとどまるものの、持ち直しの動きが続いている
- P6 住宅建設(新設住宅着工戸数)
持ち直しの兆しがみられる
- P7 公共工事(公共工事請負金額)
増加している
- P8 観光(来道者数、来道外国人数)
引き続き厳しい状況となっている
- P10 輸出入(輸出額、輸入額)
輸出額、輸入額とも前年を下回った

■企業倒産

- P11 企業倒産(倒産件数、負債総額)
倒産件数、負債総額ともに増加した

■雇用動向

- P13 求人・求職(月間有効求人数・求職者数、月間有効求人倍率、完全失業率)
弱い動きが続いている

■物価動向

- P15 物価(消費者物価指数)
消費者物価指数は前年を下回った

■企業の業況感

- P16 企業経営者意識調査
前期から上昇している
- P17 企業のみなさまから伺いました

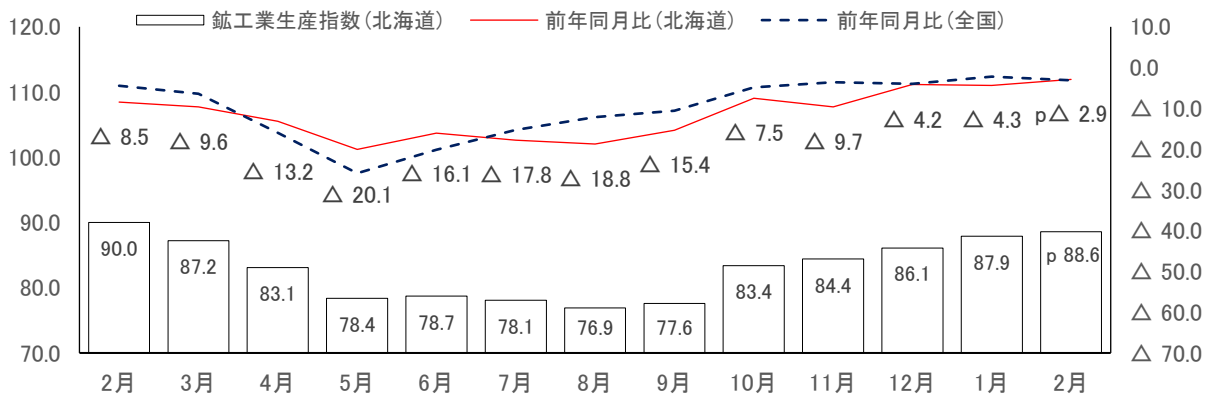
生産活動～低い水準で推移しているものの、一部に明るい動きがみられる

鉱工業生産指数（2月）

鉱工業生産指数（季節調整済）は、88.6で前月比+0.8%（6か月連続で上昇）であり、原指数による前年同月比は、△2.9%（17か月連続の低下）となった。業種別にみると、金属製品工業など6業種が前月比上昇、一般機械工業など9業種が前月比低下となった。

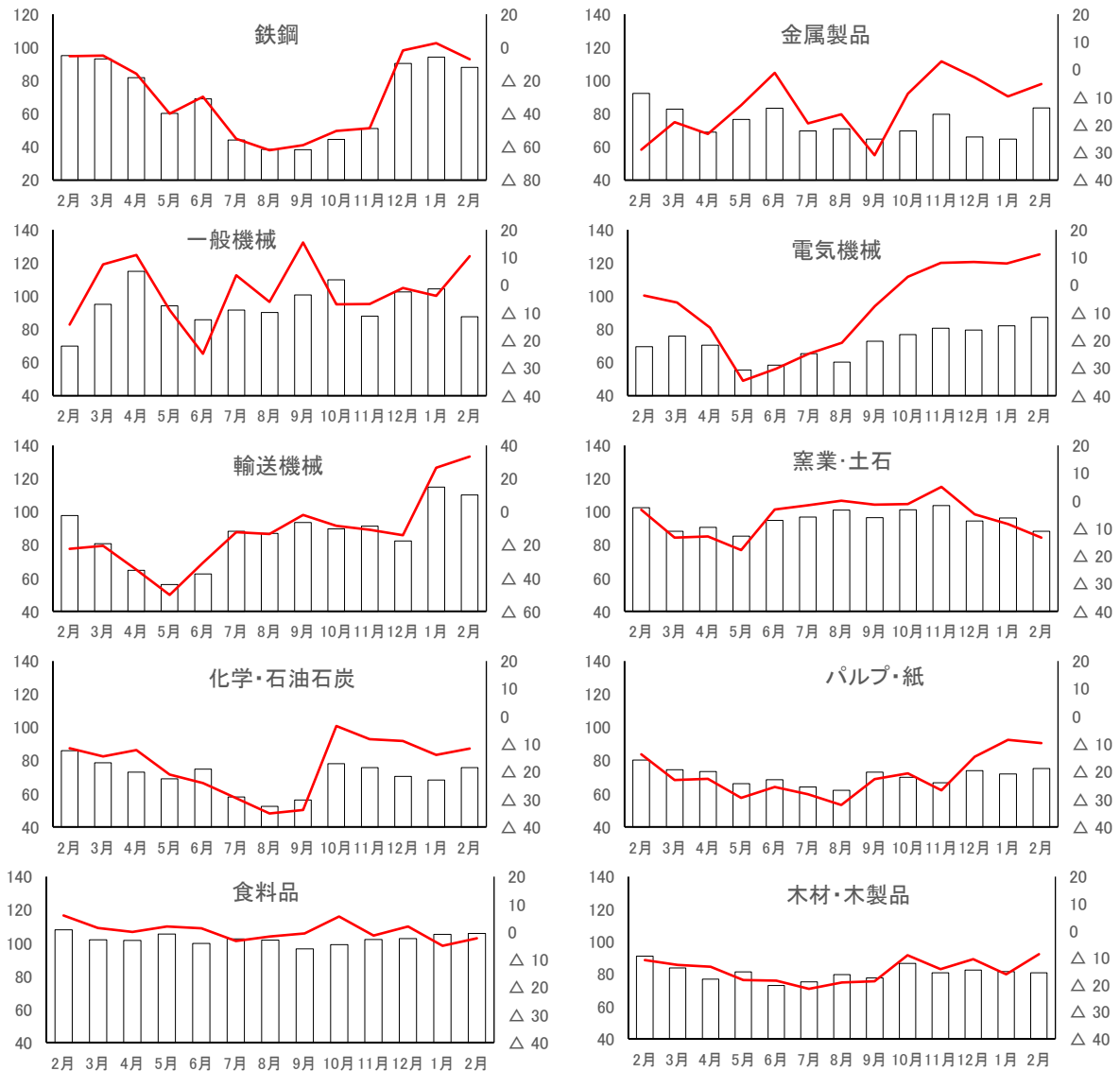
（季節調整済指数：平成27年=100）

（原指数前年同月比：%）



■ 主な業種の季節調整済指数(右軸:原指数前年同月比%)

*「p」は速報値

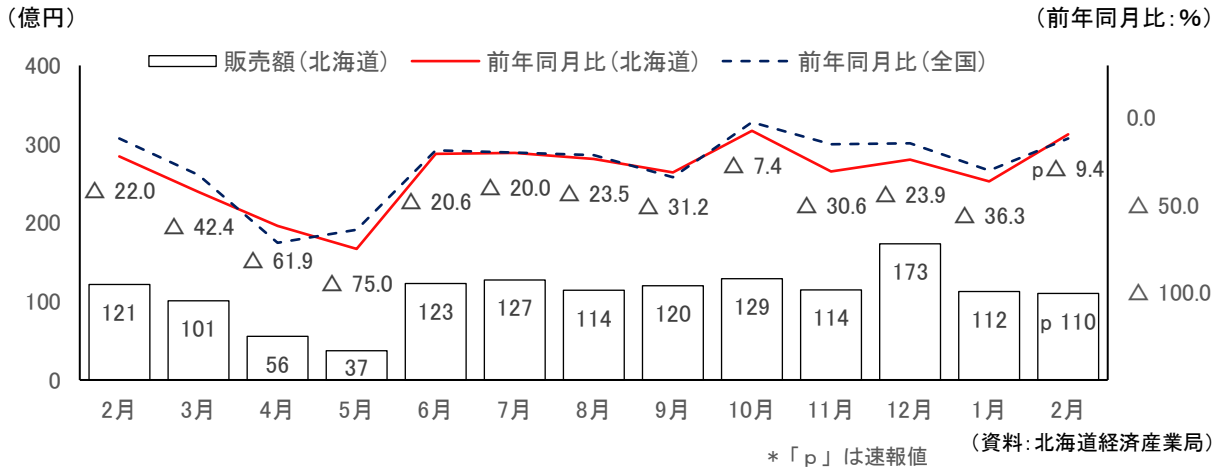


（資料：北海道経済産業局）

■個人消費～一部が低い水準にとどまるものの、持ち直しの動きが続いている

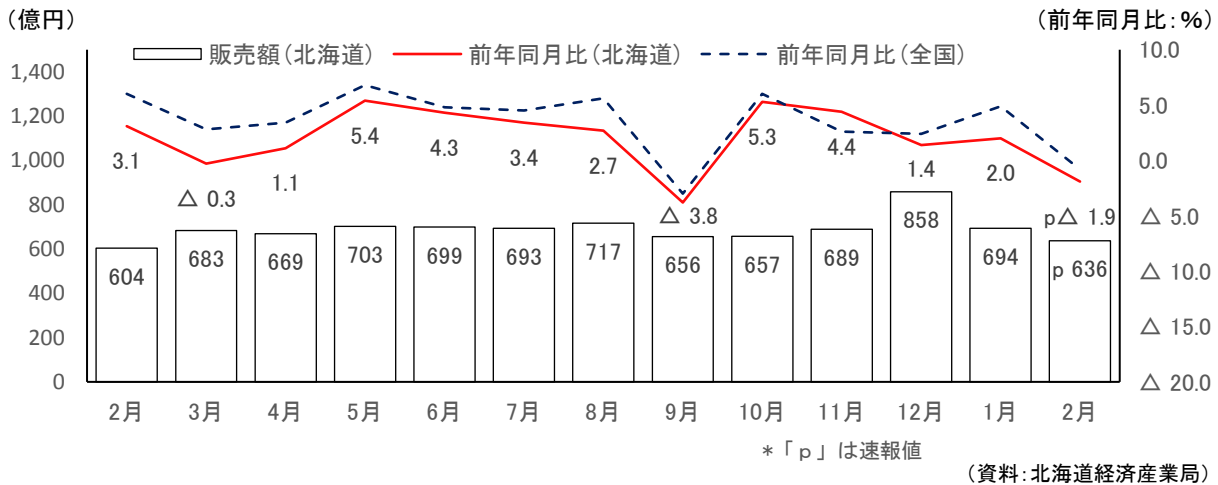
百貨店販売額（2月）

百貨店販売額は、110億円で前年同月比9.4%の減少となり、17か月連続で前年を下回った。



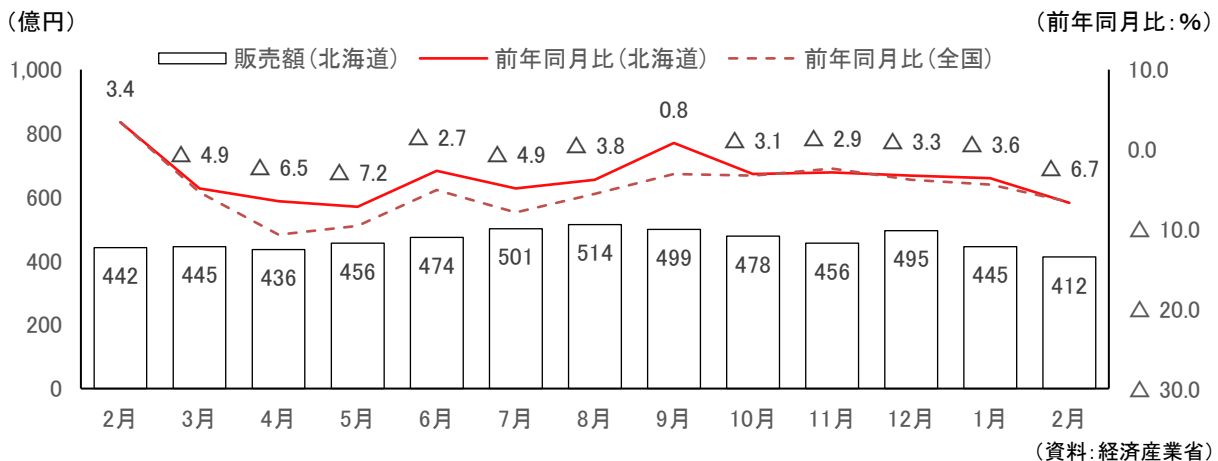
スーパー販売額（2月）

スーパー販売額は、636億円で前年同月比1.9%の減少となり、5か月ぶりに前年を下回った。



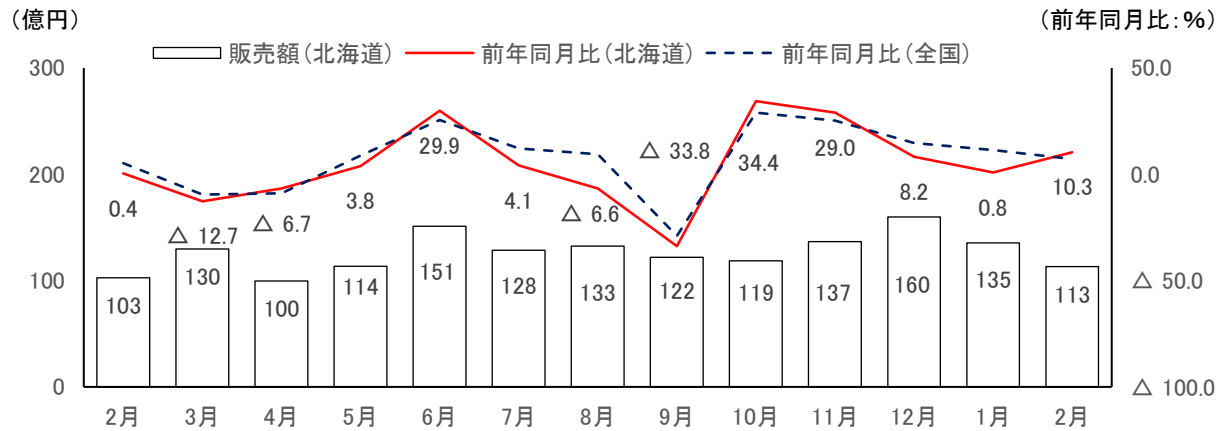
コンビニエンスストア販売額（2月）

コンビニエンスストア販売額は、412億円で前年同月比6.7%の減少となり、5か月連続で前年を下回った。



家電大型専門店販売額（2月）

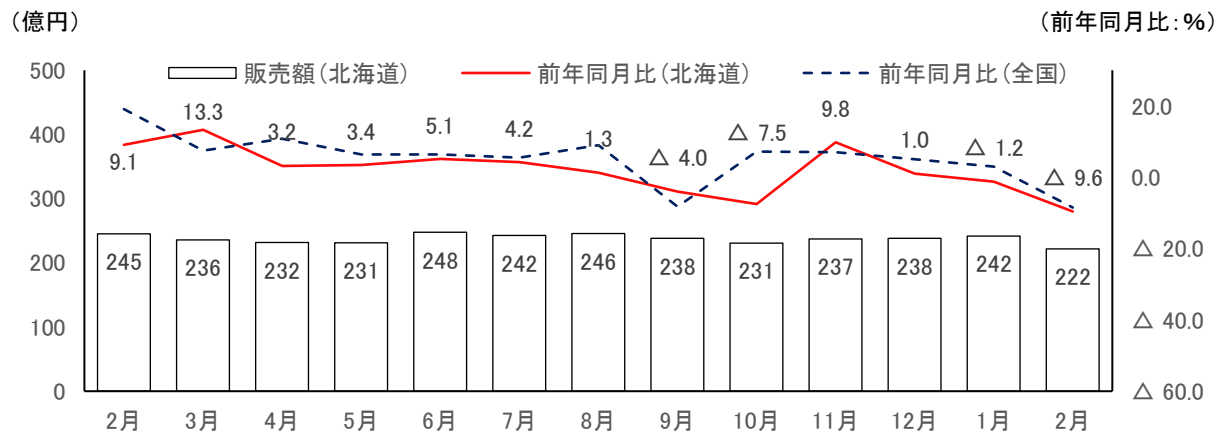
家電大型専門店販売額は、113 億円で前年同月比 10.3%の増加となり、5 か月連続で前年を上回った。



(資料: 経済産業省)

ドラッグストア販売額（2月）

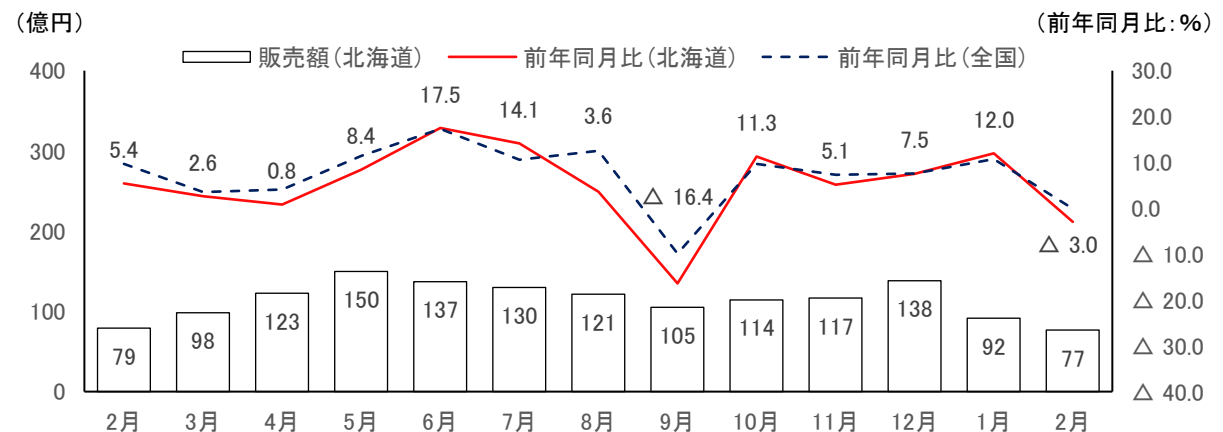
ドラッグストア販売額は、222 億円で前年同月比 9.6%の減少となり、2 か月連続で前年を下回った。



(資料: 経済産業省)

ホームセンター販売額（2月）

ホームセンター販売額は、77 億円で前年同月比 3.0%の減少となり、5 か月ぶりに前年を下回った。

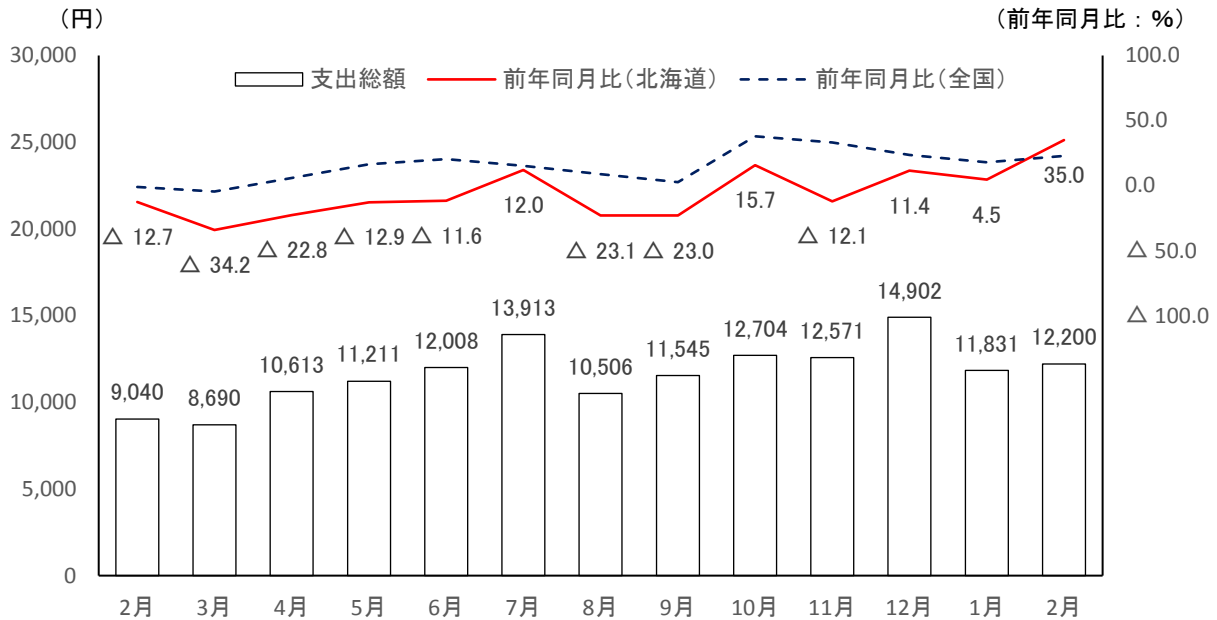


(資料: 経済産業省)

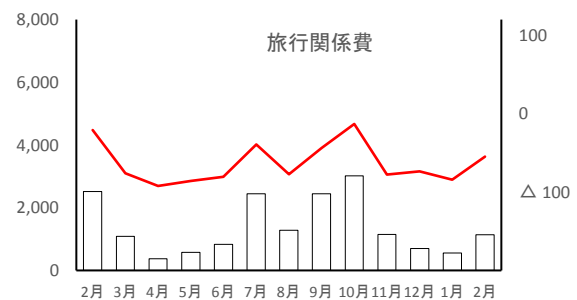
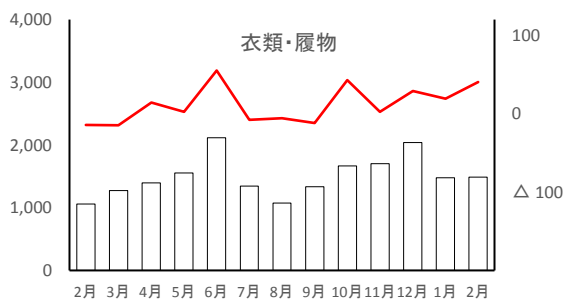
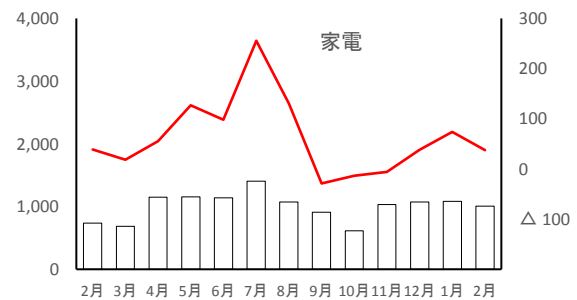
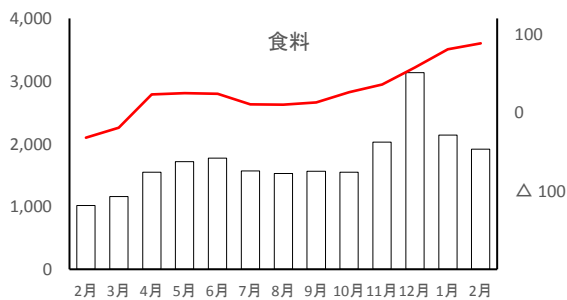
インターネットを利用した1世帯当たり1か月間の支出（2月）

インターネットを利用した1世帯当たり1か月間の支出総額は12,200円で、前年同月比35.0%の増加となり、3か月連続で前年を上回った。

品目別にみると、食料は1,914円で前年同月比88.2%の増加、家電は1,009円で同37.5%の増加、衣類・履物は1,486円で同40.3%の増加、旅行関係費が1,140円で同54.7%の減少となった。



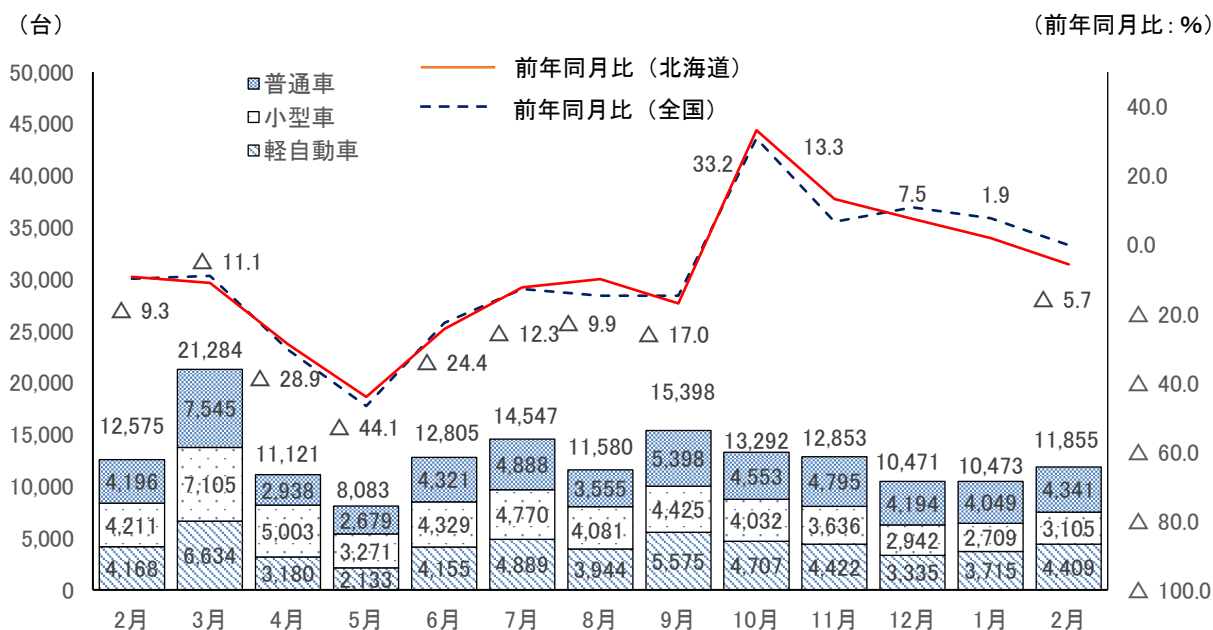
■品目別支出額（右軸：前年同月比%）



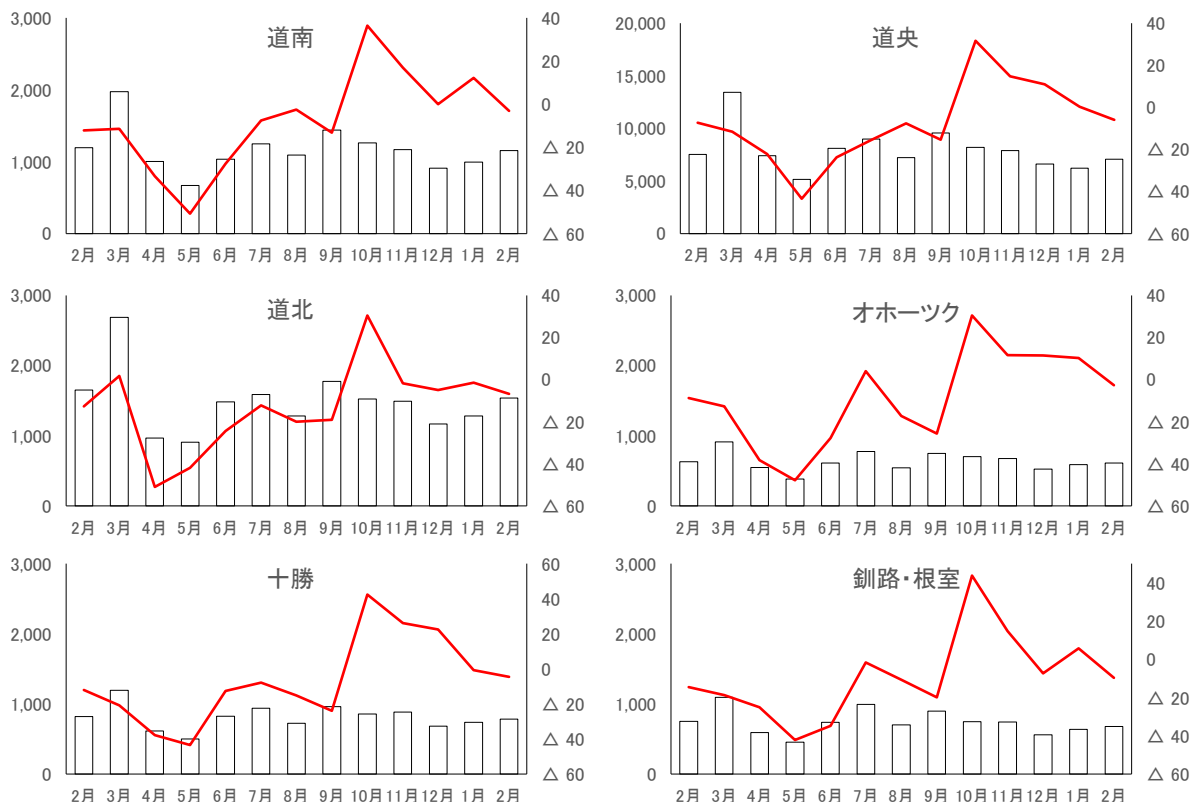
(資料:総務省)

新車登録台数（2月）

新車登録台数は、11,855 台で前年同月比 5.7%の減少となり、5 か月ぶりに前年を下回った。
 車種別にみると、普通車は、4,341 台で前年同月比 3.5%の増加、小型車は、3,105 台で同 26.3%の減少、軽自動車は、4,409 台で同 5.8%の増加となった。



■各圏域の新車登録台数（右軸：前年同月比%）

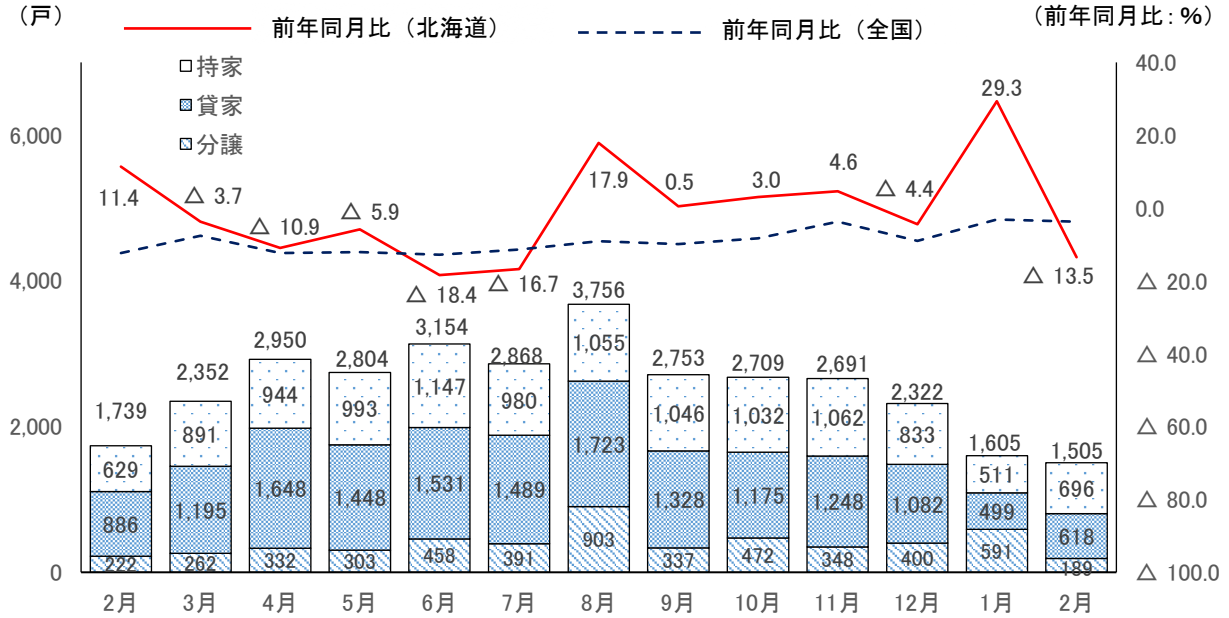


(資料: (一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車協会連合会)

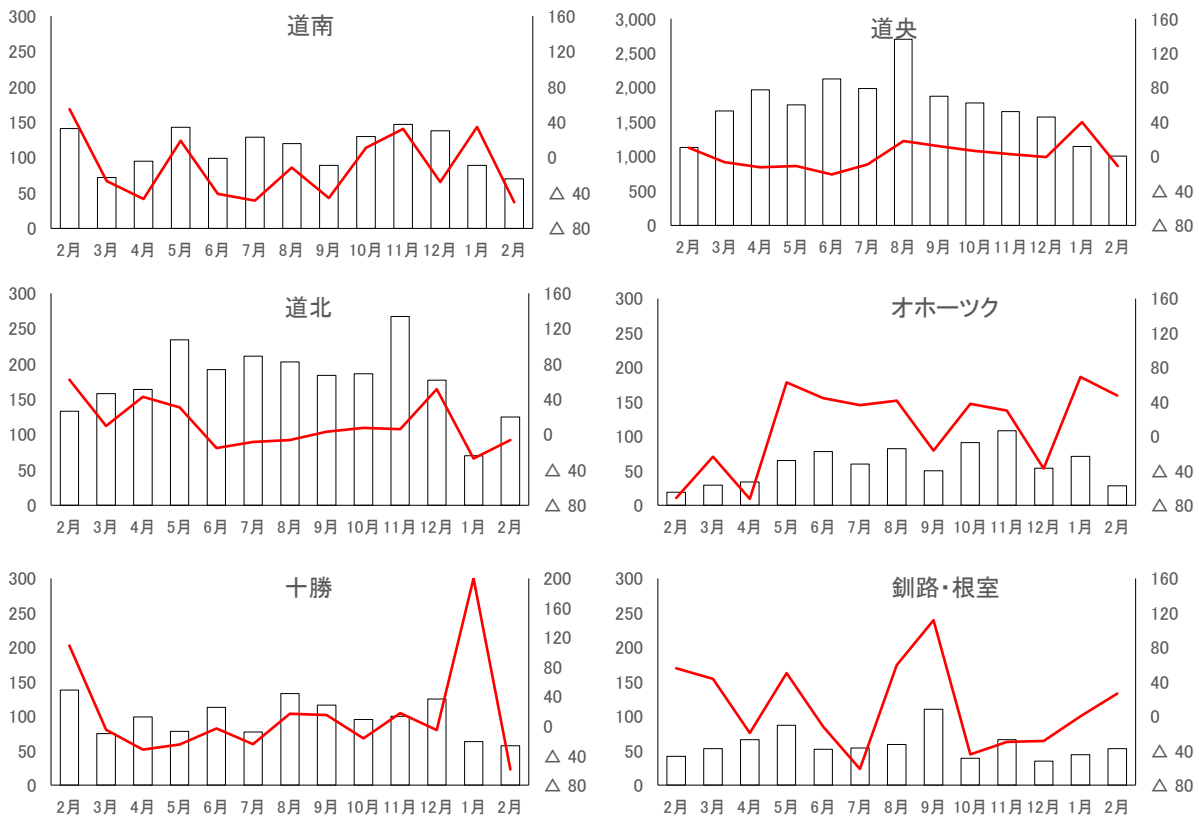
■住宅建設～ 持ち直しの兆しがみられる

新設住宅着工戸数（2月）

住宅着工戸数は、1,505戸で前年同月比13.5%の減少となり、2か月ぶりに前年を下回った。
 利用関係別にみると、持家は、696戸で同10.7%の増加、貸家は、618戸で30.2%の減少、分譲住宅は189戸で同14.9%の減少となった。



■各圏域の新設住宅着工戸数（右軸：前年同月比%）

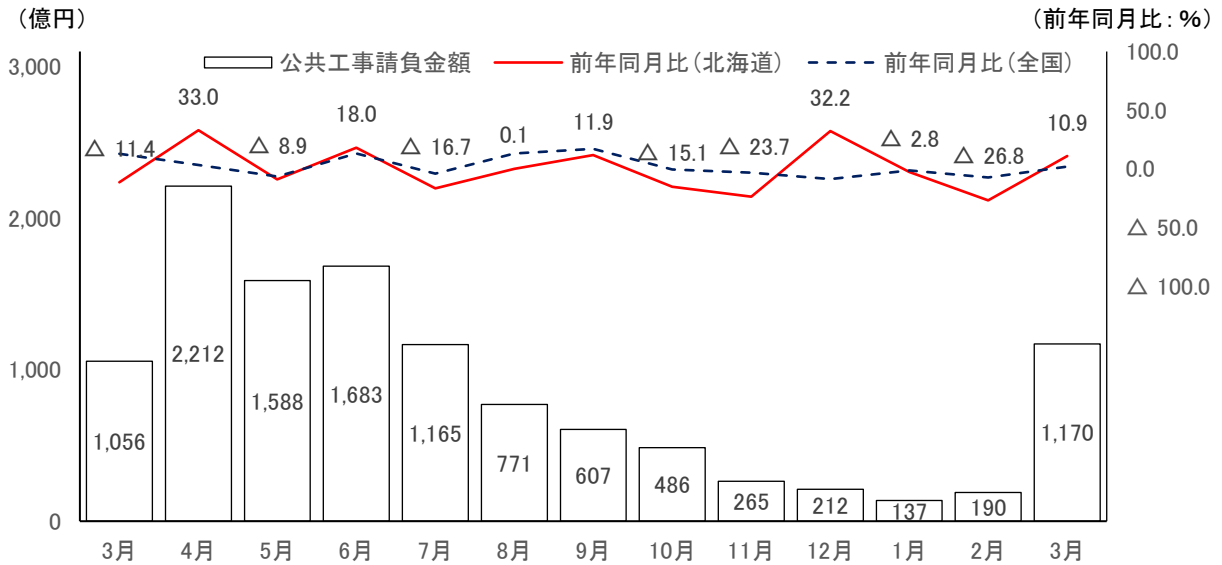


(資料: 国土交通省)

■公共工事～増加している

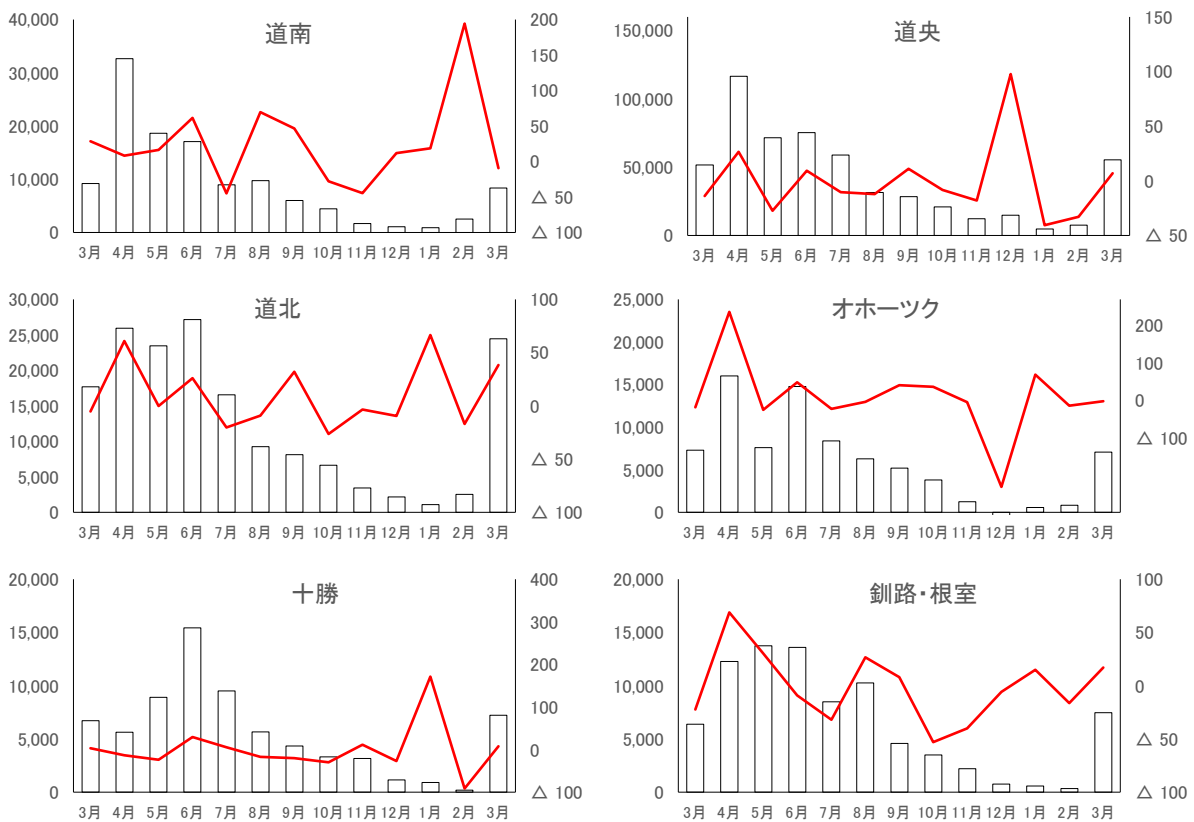
公共工事請負金額（3月）

請負金額は、1,170億円で前年同月比10.9%の増加となり、前年を3か月ぶりに上回った。



(資料:北海道建設業信用保証(株))

■各圏域の公共工事請負金額（左軸：百万円、右軸：前年同月比%）

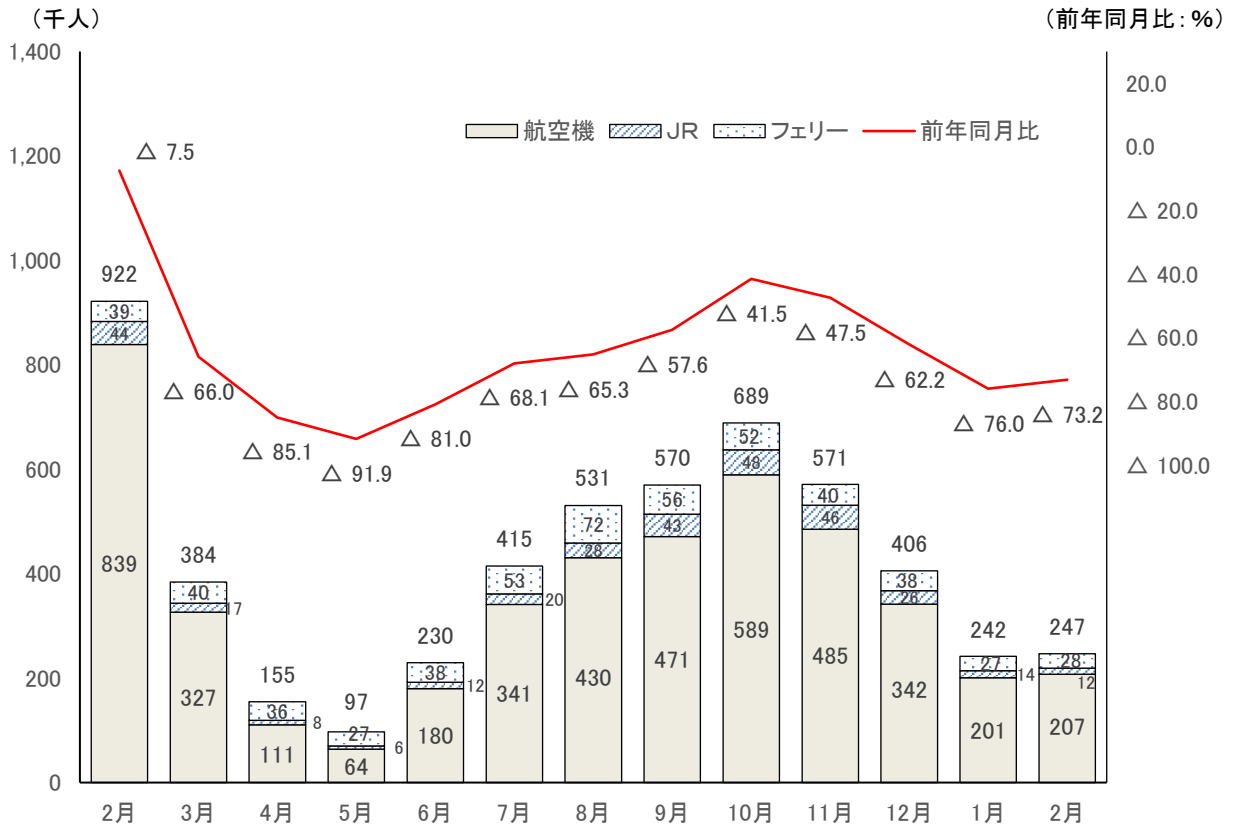


(資料:北海道建設業信用保証(株))

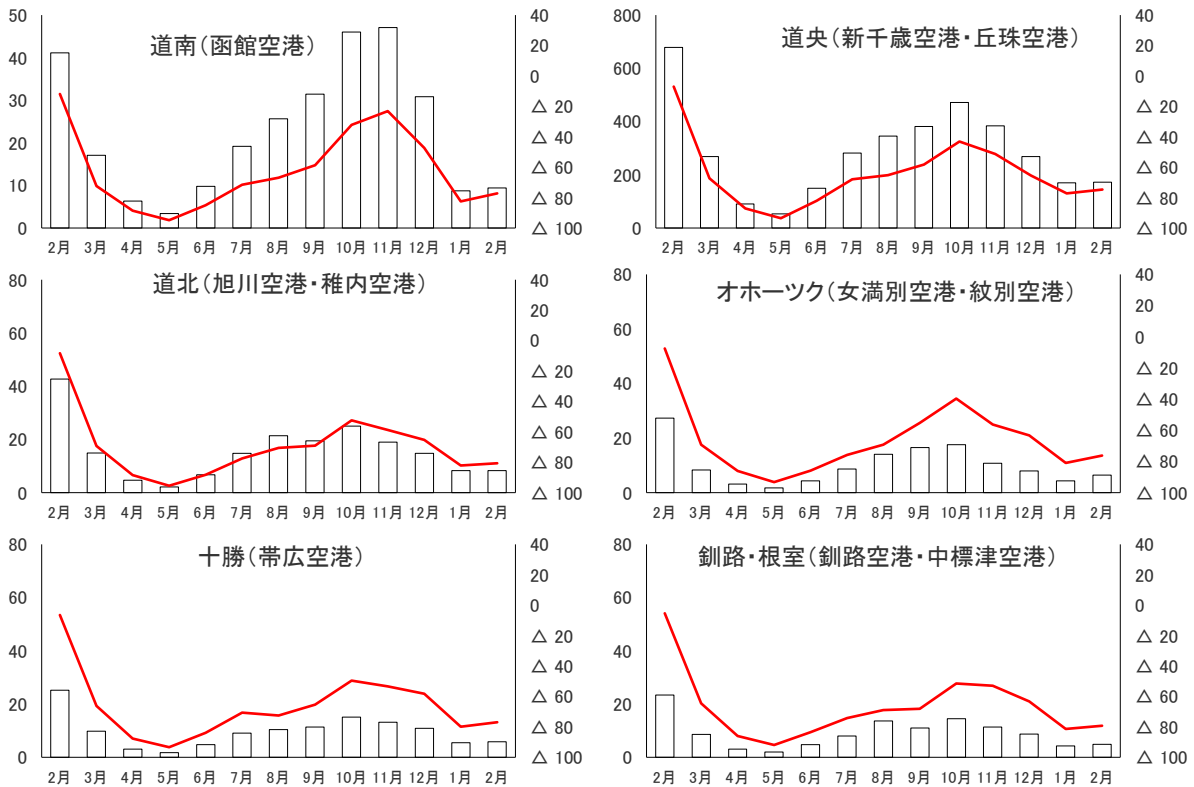
■観光～引き続き厳しい状況となっている

来道者数（2月）

来道者数は、24万7千人で前年同月比73.2%の減少となり、13か月連続で前年を下回った。



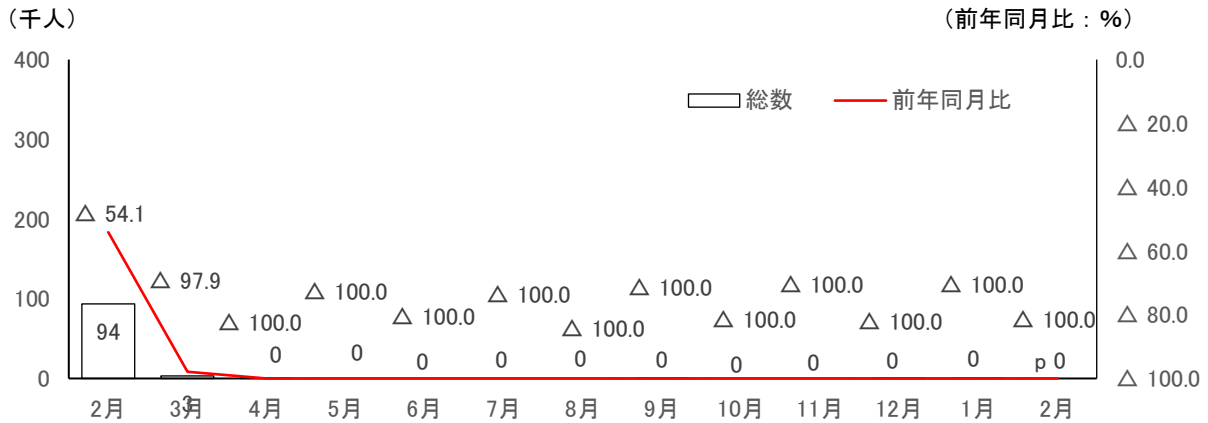
■各圏域の航空機利用による来道者数（左軸：千人、右軸：前年同月比%）



(資料：(公社)北海道観光振興機構)

来道外国人数（2月）

本道に直接入国した外国人は、0人で前年同月比100.0%の減少となり、17か月連続で前年を下回った。

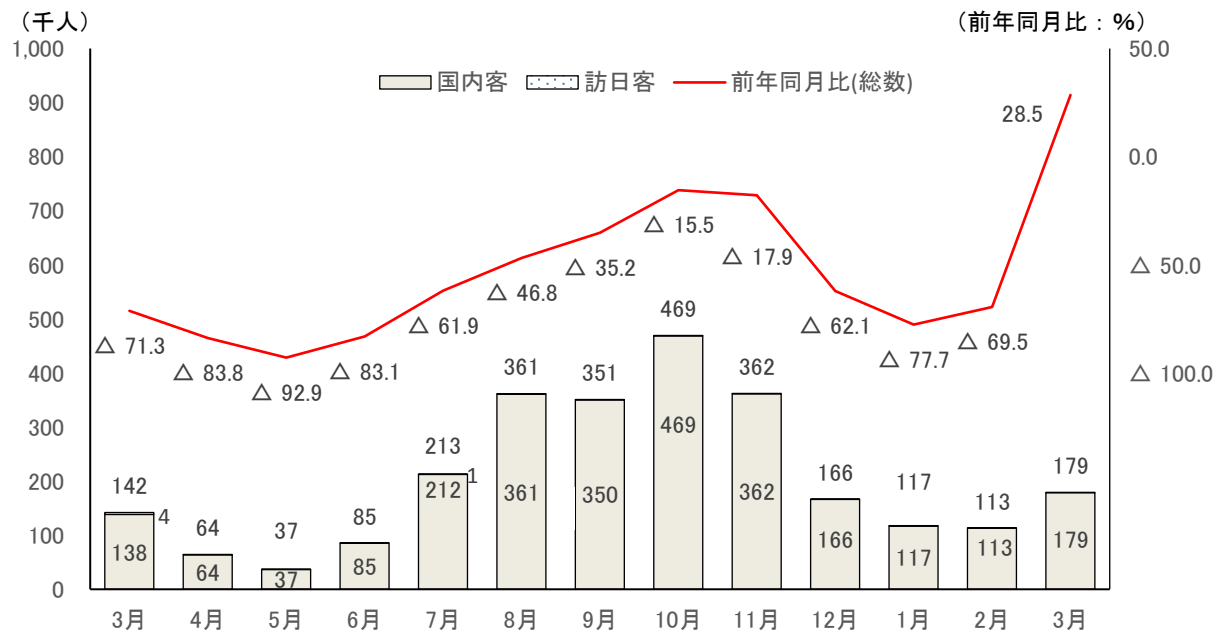


*「p」は速報値 (資料:法務省入国管理局)

宿泊者数（3月）

日本旅館協会加盟施設の宿泊者数は、178,703人で前年同月比28.5%の増加となり、17か月ぶりに前年を上回った。

このうち、国内客は178,656人で同28.5%の増加、訪日客は47人で同98.9%の減少となった。

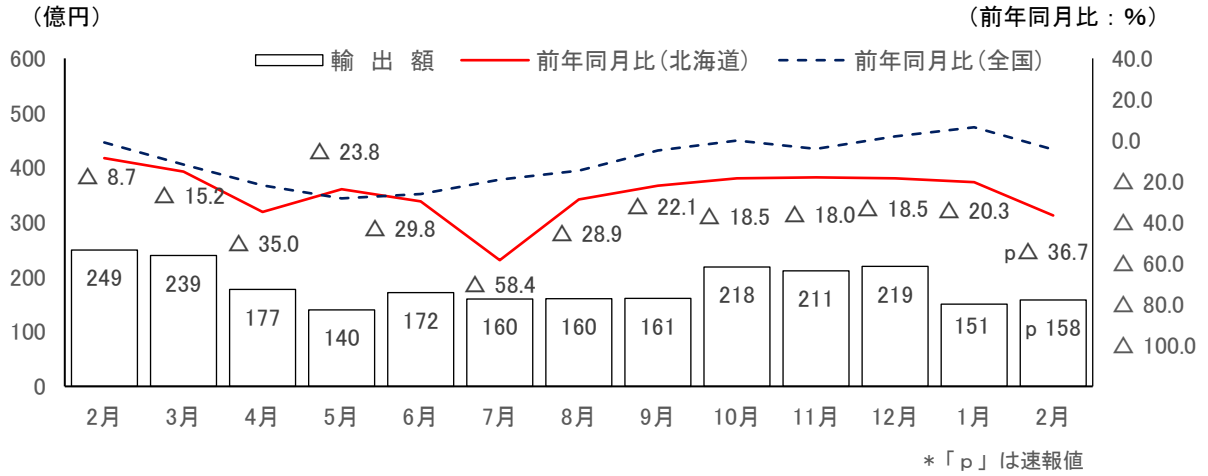


(資料:日本旅館協会北海道支部連合会)

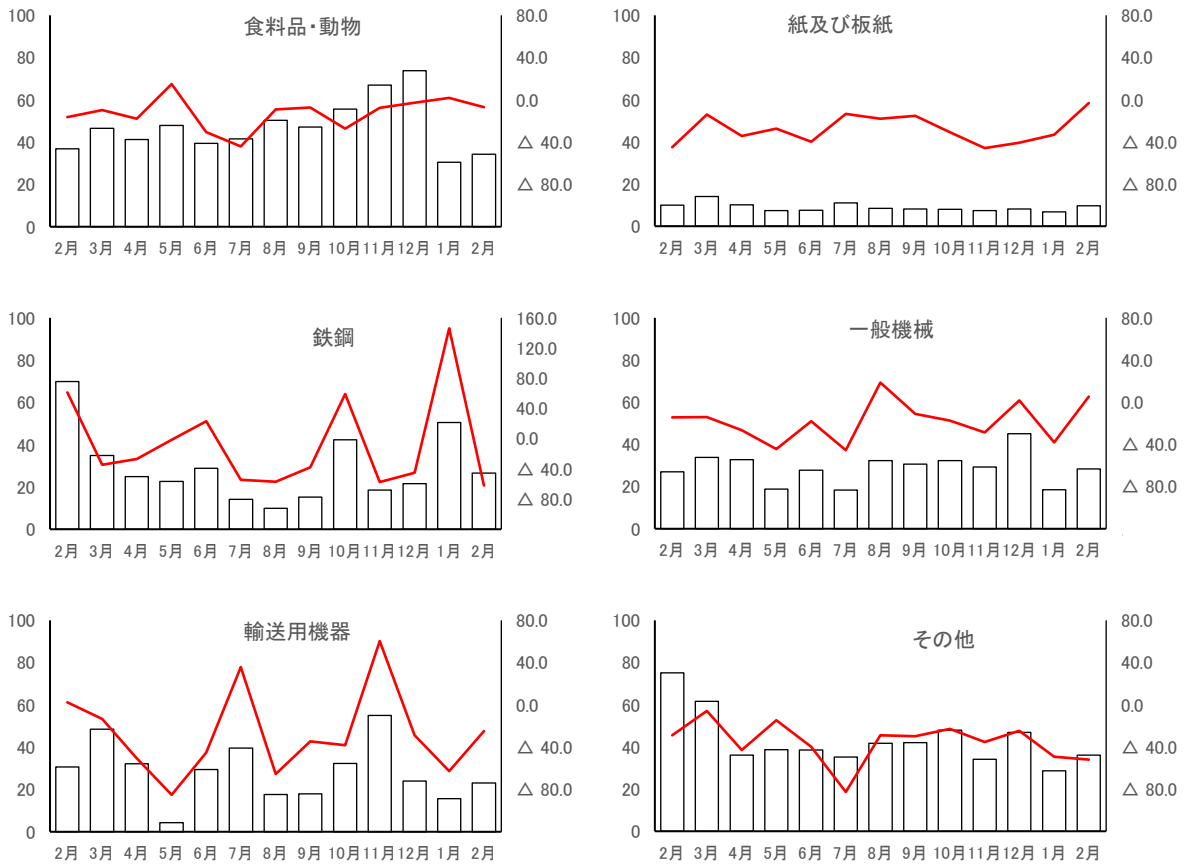
■輸出入～輸出額、輸入額とも前年を下回った

輸出額（2月）

輸出額は、158億円で前年同月比36.7%の減少となり、19か月連続で前年を下回った。品目別にみると、一般機械が増加したものの、鉄鋼などが減少した。



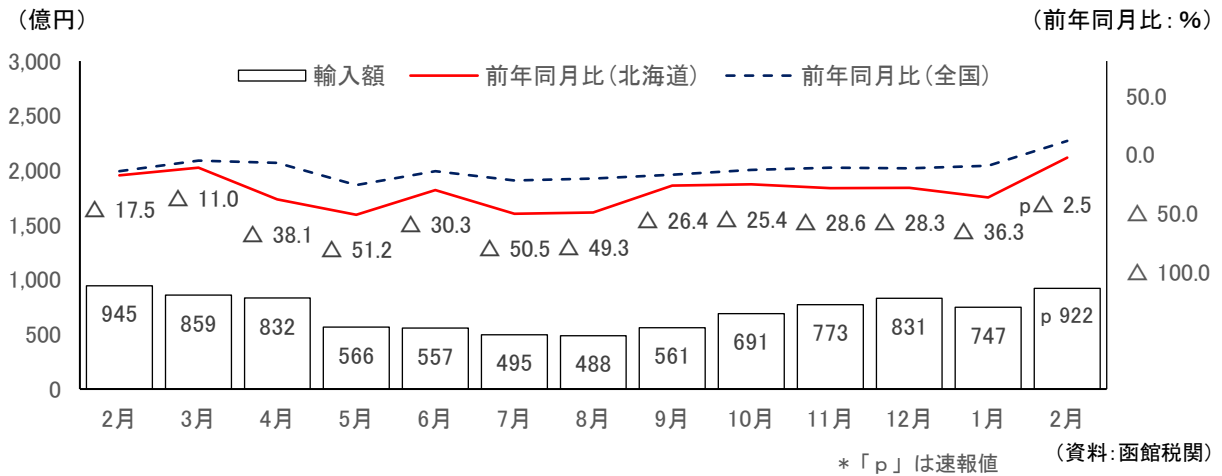
■種類別の輸出額（右軸：前年同月比%）



(資料：函館税関)

輸入額（2月）

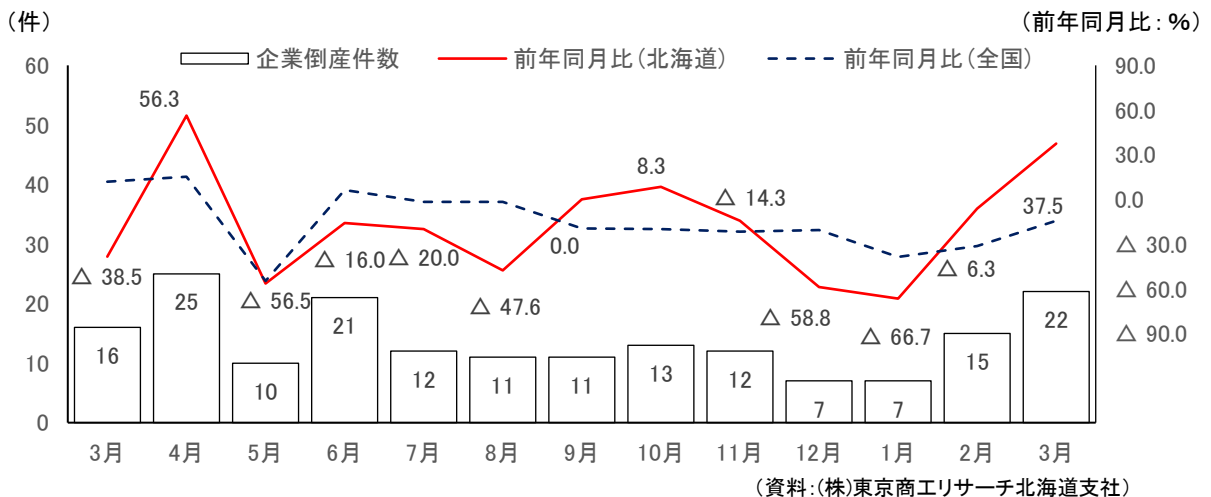
輸入額は、922億円で同2.5%の減少となり、22か月連続で前年を下回った。
品目別にみると、原油・粗油、一般機械などが増加したが、再輸入品、石炭などが減少した。



■企業倒産～倒産件数、負債総額ともに増加した

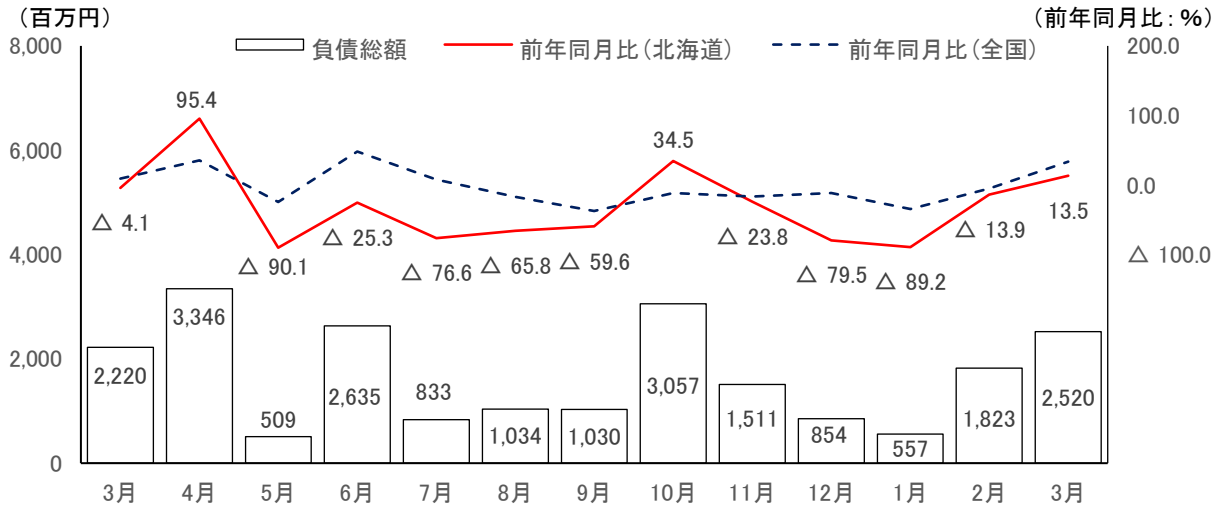
倒産件数（3月）

企業倒産件数は22件、前年同月比で6件の増加となった。
原因別でみると、販売不振が20件（構成比90.9%）を占めた。
業種別でみると、サービス業・その他が11件（構成比50.0%）、卸・小売業が7件（構成比31.8%）、
製造業が3件（構成比13.6%）、建設業が1件であった。

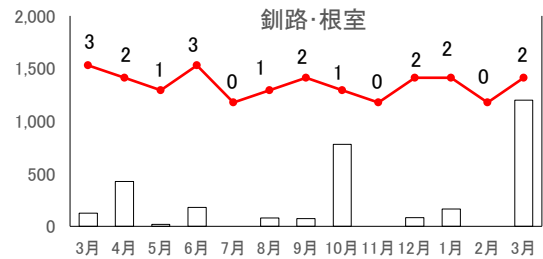
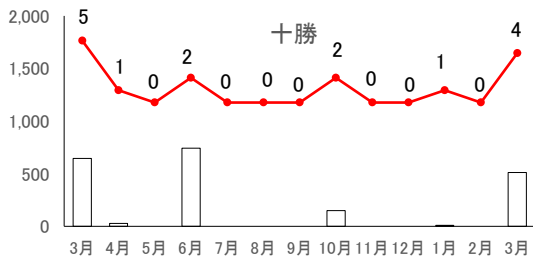
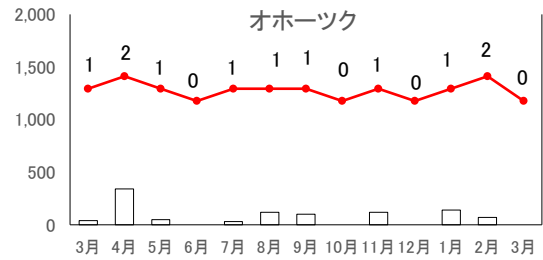
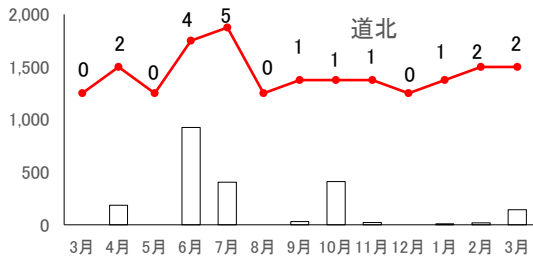
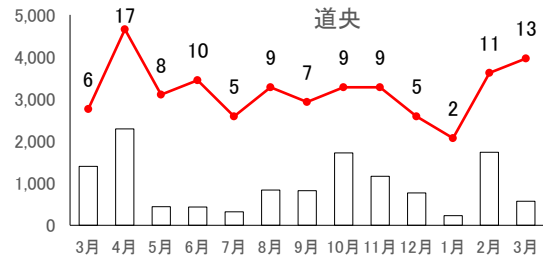
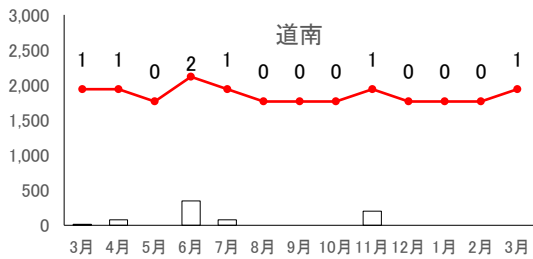


負債総額（3月）

負債総額は、25億20百万で同13.5%の増加となり、5か月ぶりに前年を上回った。



■各圏域の負債総額と倒産件数（折れ線）



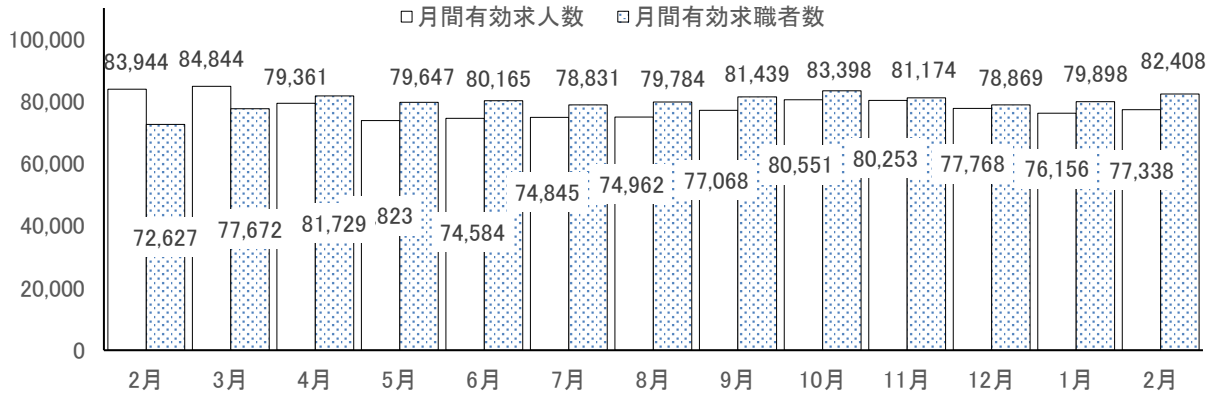
(資料):(株)東京商工リサーチ北海道支社)

■求人・求職～弱い動きが続いている

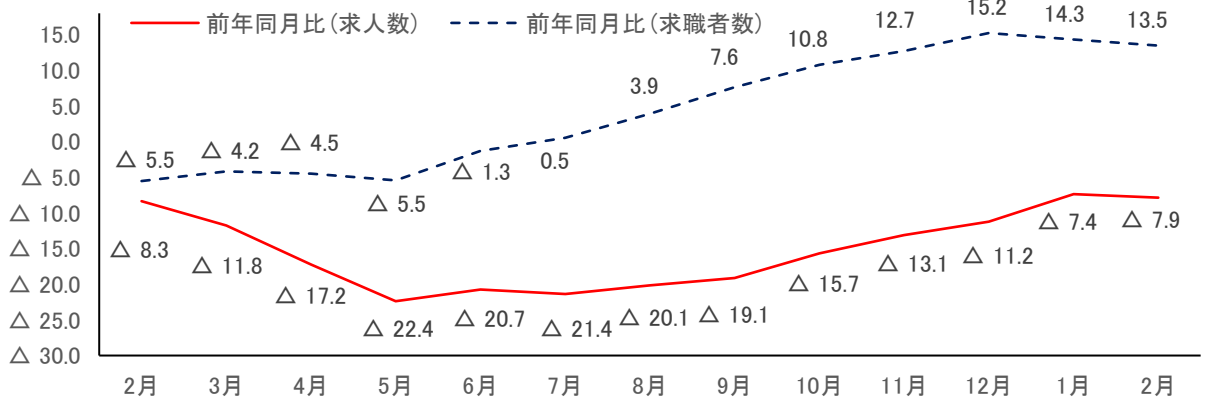
月間有効求人数・求職者数（2月）

月間有効求人数は、7万7,338人で前年同月比7.9%の減少となり、16か月連続で前年を下回った。月間有効求職者数は、8万2,408人で同13.5%の増加となり、8か月連続で前年を上回った。

(人)



(前年同月比：%)



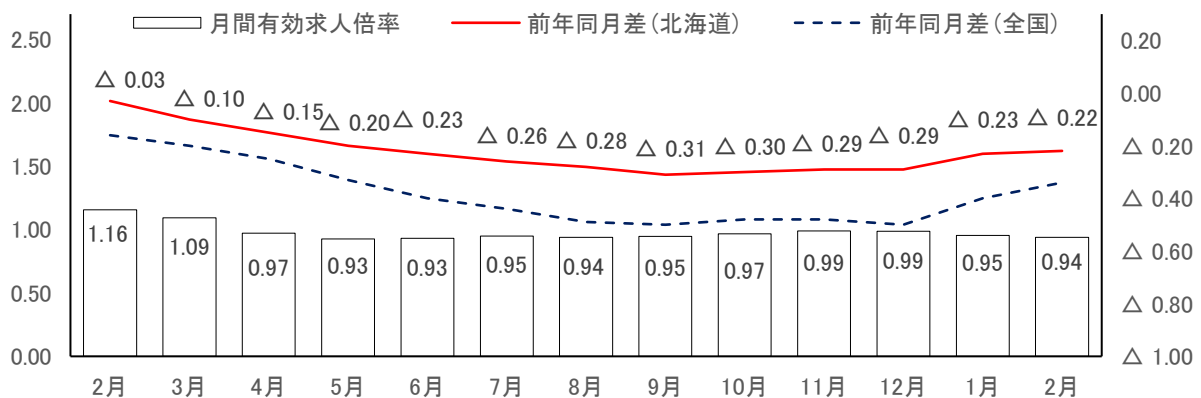
(資料：北海道労働局)

月間有効求人倍率（2月）

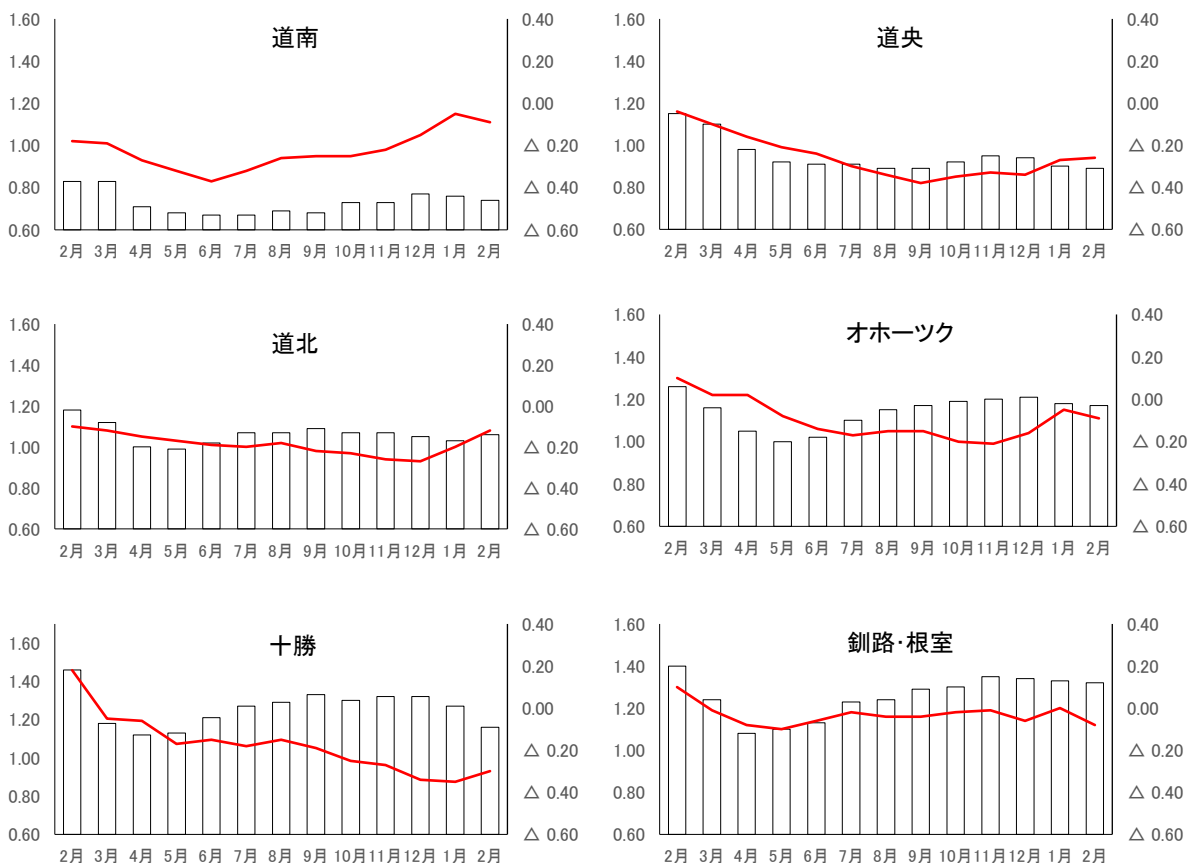
有効求人倍率は0.94倍で、前年同月差で0.22ポイントの減少となり、14か月連続で前年を下回った。

(倍)

(前年同月差：ポイント)



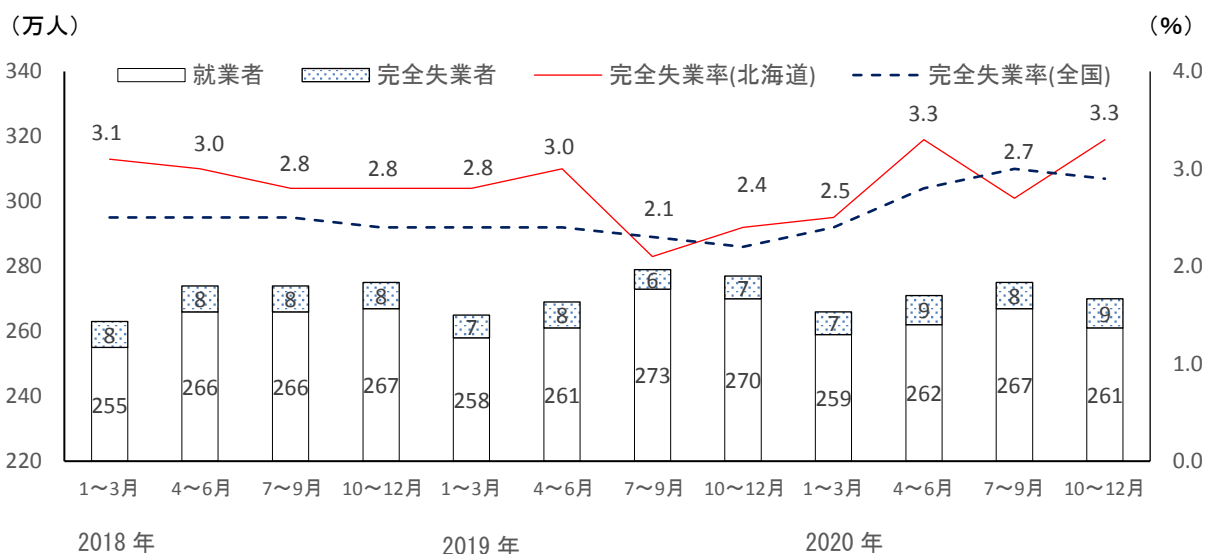
■各圏域の月間有効求人倍率（右軸は前年同月差）



(資料:北海道労働局)

完全失業者数、完全失業率（令和2年10-12月）

完全失業者数は9万人で、前年同期と比べ2万人増加している。
完全失業率は3.3%で、前年同期と比べ0.9ポイント上昇となっている。

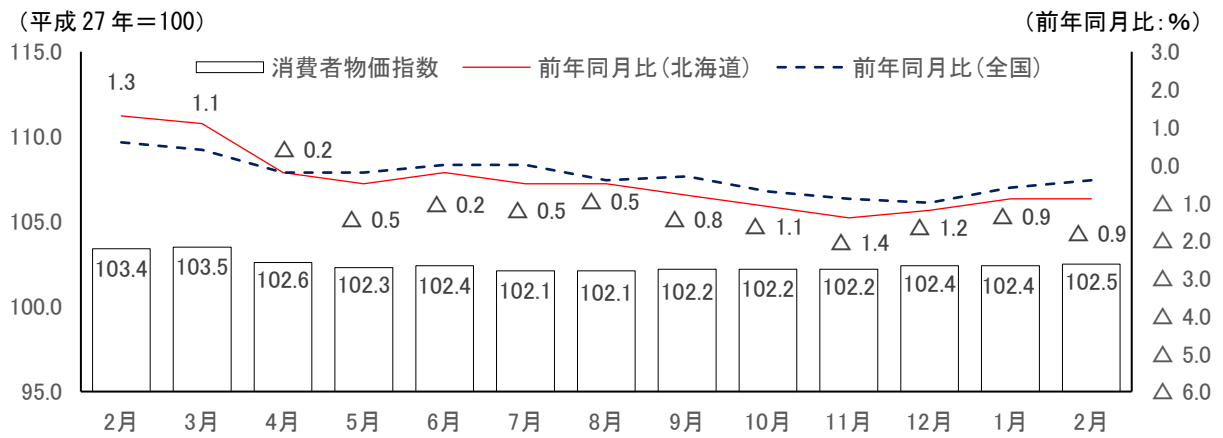


(資料:総務省)

■物価～消費者物価指数は前年を下回った

消費者物価指数（2月）

消費者物価指数（生鮮食品を除く）は、102.5 で前年同月比 0.9% の下降となり、11 か月連続で前年を下回った。



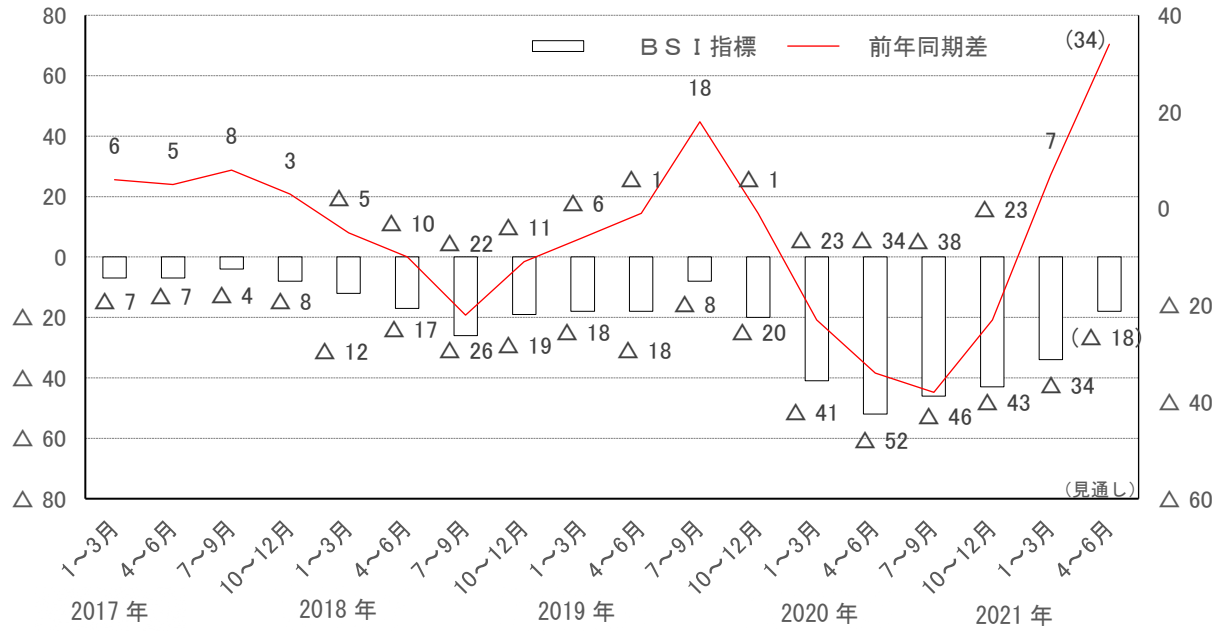
(資料:総務省)

■企業経営者意識調査～前期から上昇している

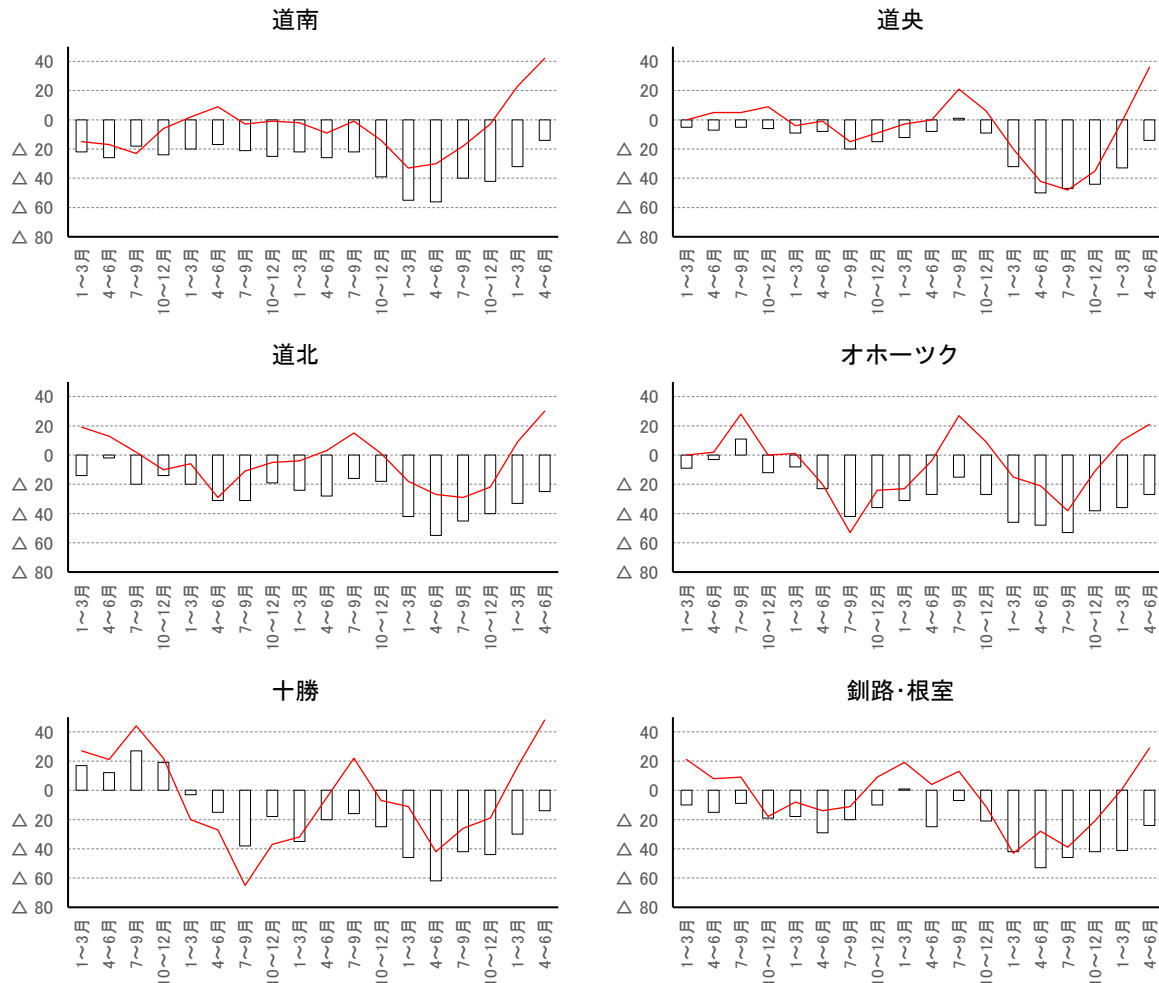
令和3年1-3月期の業況感BSIは△34ポイントで、前期から9ポイント上昇しており、前年同期より7ポイント上昇している。来期見通しは△18ポイントで、今期から16ポイント上昇の見通しとなっている。

(BSIポイント)

(前年同期差:ポイント)



■各圏域の業況感BSI (折れ線グラフは前年同期差)



(北海道経済部調べ)

■企業のみなさまから伺いました

◆百貨店（道央地域）

【3月の売上は回復傾向継続】

2月の回復傾向が継続しており、家中需要によるリビング商品や高級時計などは引き続き堅調であり、春休みの旅行客の来店やホワイトデーの影響で食料品も好調であった。衣料品は引き続き不調だが、ラグジュアリーブランドが健闘している。富裕層顧客を担当する外商は、全体売上の1割程度を占めており、動画を活用したオンラインでの販売にも取り組んでいる。

【4月の売上は下降傾向】

4月に入ってから、コロナ感染者の増加に伴い、売上・来店者数とも厳しい状況がみられるが、現在開催中の催事などは、今のところ予定通り開催する予定。

◆スーパー（道央地域）

【前々年との比較ではプラス】

コロナの影響で売上の伸びた前年との比較で、3月からはその反動減があらわれ、品目別では米のマイナスが特に大きくなっている。売上全体の前年同月比は100%を割っているものの、前々年との比較では上回っており、季節商品では、ひな祭り関連（ちらしずし、ひなあられ等）が好調だった。

◆コンビニエンスストア（道央地域）

【引き続き自宅需要が好調】

3月は、気温が高めに推移し、比較的安定した天候であり、昨年の緊急事態宣言下と比較すると、オフィス・繁華街の人流が増加し、弁当やおにぎり、飲料水に動きがみられた。アルコール類は好調を継続しており、制限解除後も家飲みの傾向が続いていることが考えられる。ひな祭りやホワイトデーなどのイベントでは、家で消費できるものの需要が高く、引き続き家庭内でのイベント需要は高まっているのではないかと。

最近の経済動向

令和3年4月号

編集・発行 北海道経済部経済企画局経済企画課

TEL 011-204-5139

「最近の経済動向」のデータ集は、北海道のホームページでご覧になれます。

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kks/ksk/tgs/saikin-doukou.htm>